

Song Review 2 #Feeling Good

『#Feeling Good』（作詞：Leslie Bricusse、作曲：Anthony Newley、1964 年）を取り上げる。本作は、黒人の希望と解放を歌った名曲である。元はミュージカル曲（The Roar of the Greasepaint - The Smell of the Crowd）であった。その後、ニーナ・シモンによる 1965 年のカバーが、彼女のアルバム『I Put a Spell on You』に収録され、黒人の希望と解放の象徴として広く知られるようになった。その歌唱によりジャズの名演に昇華した。本曲（Michael Bublé が歌う Feeling Good）は MLB での大谷翔平の登場曲として知る人も多いかもしれない。この詩が、自然の営み：自由の象徴として描かれ、抑圧からの解放や新しい人生への希望を歌っていると知って用いたとしたら、また一つ大谷翔平の凄さを知ることになる。

Birds flying high
You know how I feel
Sun in the sky
You know how I feel
Breeze drifting on by
You know how I feel
It's a new dawn
It's a new day
It's a new life
For me
And I'm feeling good

（高く飛ぶ鳥たちよ：おまえは私がどう感じているか知っている
空の太陽よ：おまえは私がどう感じているか知っている
そよ吹く風よ：おまえは私がどう感じているか知っている
新しい夜明けだ、新しい日だ、新しい人生だ
私のための
そうだ、いい気分だよ）

ニーナ・シモンは 1933 年、ノースカロライナ州トライオン生まれ、クラシックピアニストを志していたが、黒人差別により進学を阻まれ、酒場での演奏をきっかけに歌手としての道を歩み始めた。

ニーナ・シモンの音楽は、単なる娯楽ではなく、黒人としてのアイデンティティ、

差別への怒り、そして希望の表現であった。彼女はキング牧師の暗殺死に際して「Why? (The King of Love Is Dead)」を歌い、公民権運動の中で重要な声となった。

私が彼女の歌に接したのは「Ain't Got No, I Got Life」が最初である。1968年にリリースされたこの楽曲は、ロック・ミュージカル『Hair』の2曲「Ain't Got No」と「I Got Life」をメドレー形式で再構成したものだそうだ。彼女はこの曲を通じて、黒人女性としての誇り、そして人間としての尊厳を力強く歌い上げた。

I ain't got no home, ain't got no shoes
Ain't got no money, ain't got no class
...
I got my hair, I got my head
I got my brains, I got my ears
I got my eyes, I got my nose
I got my mouth, I got my smile
...
I've got life, I've got my freedom

(私には家がない、靴がない、お金がない、教育がない
… 髪の毛、頭を手に入れた、頭脳を手に入れた、耳を手に入れた、
目を手に入れた、鼻を手に入れた、口を手に入れ、笑顔を手に入れた
… 私には人生があり、私は自由を持っている)

「Ain't Got No」のメッセージ

「私には家がない、靴がない、お金がない、教育がない…」と社会的・経済的に奪われたものを列挙することで、疎外された存在としての自己を描写した。

「I Got Life」のメッセージ

「髪がある、目がある、心がある、魂がある、命がある」と自分の身体と魂に目を向け、「誰にも奪えないもの」を肯定的に歌った。
この対比が、物質的欠乏と精神的豊かさの間にある人間の本質を浮き彫りにした。

時代へのインパクト

1960年代後半、米国では黒人の権利を求める公民権運動が激化。彼女はその象徴的存在であった。原曲が登場した『Hair』は反戦・反体制の象徴。彼女のバー

ジョンは、単なる自由の賛歌ではなく、抑圧された者の生存宣言として再解釈されている。「胸がある」「性がある」といった歌詞は、女性の身体性を肯定するフェミニズム的視点とも重なり、黒人女性のアイデンティティを力強く表現している。

評価：★★★★★